

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こぼんはうすさくら つくぼみらい教室		
○保護者評価実施期間	2024年 12月 30日		2025年 1月 20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	32	(回答者数) 18
○従業者評価実施期間	2025年 1月 9日		2025年 1月 20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数) 11
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 5日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<ul style="list-style-type: none"> ■ 子供達の受け入れ環境の整備 <ul style="list-style-type: none"> ↳ 事業所の広さ(50㎡超の支援室が2フロア有) ↳ 職員人数(1日に6~8名出勤と手厚い体制) ↳ 綺麗で清潔、整理整頓された空間 	<ul style="list-style-type: none"> ・ シフト作成時に、必ず人数比を見て作成している。 ・ 多くの職員に選んでいただけるような『働く環境』づくりに努める。 ・ チェック表を運用し、清掃、整理整頓を適切に行うよう努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後も同じような人員体制を続けられるように努める。 ・ 時間ごとの職員配置や体制について、より良く行えるよう努める。 ・ 直接支援の時間を増やし体制を充実させるため、支援以外の業務効率化を継続的に実施する。
2	<ul style="list-style-type: none"> ■ プログラム運営の多様さ、充実度合 <ul style="list-style-type: none"> ↳ 毎日1つ以上の集団プログラムを実施 ↳ プログラムは日替わりで、経験の幅や多様さ、楽しみながら自立支援を行う。 ↳ 専門職が在籍し、個別での言語療法等を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他施設様の事例等も含めて情報収集を行ったり、同法人内の連携により他教室のプログラムを取り入れるなどして、幅広い活動を行うようにしている。 ・ 役割分担を通じて、専門職が専門的な知識やスキルを活かせる環境を整えるよう努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既存/類似したプログラムに限定せず、幅広く情報収集や立案を行う。 ・ 活動の狙いを意識したプログラム選定、運営を行い、自立支援/発達支援としての成果を高めていく。
3	<ul style="list-style-type: none"> ■ 支援の提供 <ul style="list-style-type: none"> ↳ 職員人数が多いことにより、児童一人ひとりをよくみて理解した上で、児童に合わせた支援の提供に努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童の様子をよく見られるような職員配置を意識して調整すると共に、朝礼、昼礼、終礼、および日々の記録等を通じて情報共有し、一人ひとりに合わせた支援提供に努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障害特性や発達についての知見を職員一人一人が高めることで、より適切な支援を行うことが出来るように努める。 ・ 児童一人ひとりをよく見られる体制を維持すると共に、関わり方についてのスキルを高めていく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<ul style="list-style-type: none"> ■ バリアフリー対応 <ul style="list-style-type: none"> ↳ 建物の構造上、階段があり、車いすを使用する児童のお受け入れが難しい状況。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 建物の構造上の課題でございます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 改善には昇降機の設置等が必要となるため、現状では抜本的な変更は予定してございません。 ・ 階段使用時には職員と共に昇降したり、手すり、滑り止めの設置を通じて、安全に留意して階段を使用することを徹底する。
2	<ul style="list-style-type: none"> ■ 保護者様との相互連携やコミュニケーション等 <ul style="list-style-type: none"> ↳ 送迎時のやり取りが基本となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期的な対応についての定めが少なく、ご利用時のコミュニケーションを通じて不定期で追加のコミュニケーションを行う体制になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期的な実施のスケジュールおよび広報内容の整理、使用FMTの整備等を通じ、日常のコミュニケーションに加えて、より充実した連携を図っていく。
3	<ul style="list-style-type: none"> ■ 地域連携 <ul style="list-style-type: none"> ↳ 施設外の、地域の機関等との連携や交流が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ プログラムの立案時に、地域交流の視点が薄く、また実際の実施に際して確認、調整事項が多いことから、施設側で完結できる他の活動が優先されがちである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 月に1つなどの運用目安を定める ・ まずはアイデア出しや情報収集を行い、現実的に安全に実施できるものを立案する。 ・ 対外的な交流を広げ、ご協力いただけるような環境、関係性を築いていく。